

II. ボランティア活動実践報告

1. 松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト

(1) 平成27年度活動報告

松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト 代表 尻無浜博幸

(1)はじめに

支援活動5年目の報告を致します。5年目とは、被災時に1年生(ちょうど年度末の3月に災害が起こる)だった児童が6年生になる年です。小学校での最終学年を過ごす姿をこの一年間見てきました。身体も大きくなり以前は小さな存在が、今では校内で一番大きく見えます。それでも変わらず、「おっ! まつだい! 今週もきていたのか〜」などと生意気な口をきいてくるので少し嬉しさを感じます。学習支援に参加するのは、もう卒業してしまったかのような態度です。また、先生達とのお付き合いも活動にご配慮いただいている様子がかがえます。校長先生も教頭先生も2人目の先生ですが、前任の先生がしっかり申し送ってくださっているお陰で変わりなく活動を継続させてもらっています。最近、赴任してこられた先生より学生の方が、児童との顔見知りの期間が長いと、親しく話をしていると不思議な顔をされるらしく、学生もアンテナが高くなっているのを感じます。

(2)学習支援活動

平成27年度中に支援活動に参加した学生の一部コメントです。

「今回初めて児童の悩みを直接聴かせてもらって、少しずつ信頼してもらえ存在になっているのかなと思いました。」

「回数を追うごとに声をかけてくれる児童が増えてきています。」

「当時1年だった児童の風揚げの授業に参加させてもらい、2年になったみんなは期待通り、私の顔を覚えていてくれて!」

後表にあるとおり、平成27年度は、計16回(平成26年度は24回)、延べ学生参加者は102名(平成26年度は110名)でした。参加の動機は従来と大きな変化はありません。この活動をするために松本大学に入ったので1年生から参加する学生がいました。また、教職課程の社会活動の一環でという学生、1年に1回は毎年参加してきたので卒業を迎え、け

じめの気持ちで参加する者、様々です。活動に参加する学生の思いのバリエーションが広がることで活動内容自体が安定してきたように感じます。継続は力となって「安心して活動ができる」という財産になっています。

(3)心のケア・カウンセリング活動

引き続き、臨床心理士の古林康江先生が活動してくださいました。月1回のペースで計11回、毎回2日間、保護者や児童の相談に応じ、授業を見ています。普段は、大街道小学校の保健の先生と連絡を密にとり、保護者や児童への対応の指導をしてくださっています。震災前は360名いた児童も毎年入学してくる児童が減少し、今では220名になっています。以前は各学年2クラスあったものが、震災後は1クラスしかできない状況で、大街道地区での子どもの減少を心配しています。海岸線遠方移転による復興計画が確実に進むにつれ、児童の動向を知ることができます。

(4) その他の活動

学校行事への参加は、昨年度より行ってきましたが、今年度も継続することができました。同行し寝泊りを一緒に行う5年生の2泊3日の花山合宿には4名の学生が参加しました。また持久走大会、防犯訓練、集団下校同行など。さらに、今年度児童クラブに参加するようになりました。学習支援が終わった後、担当の先生の補助に学生を加わせてくださいました。児童クラブのニーズは震災後多くなっており、申し込む児童は多くなっているとのこと。その結果、児童クラブでの時間の過ごし方に担当の先生は苦慮されていました。学生が少し加わることで負荷の軽減になるとおっしゃっていました。学習支援から児童クラブに続けて参加する児童もあり、学生の対応は手馴れたものでした。



学習支援活動の様子(平成27年6月19日)



金曜日の午前中(学習支援を行っていない時間)、通常のクラスに入って授業の補助をさせてもらっています。(この時間は田植えの手伝いです)



大街道小学校の校内に貼ってある学校を案内するポスター(学習支援活動の写真があります)。

【資料1】 松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト活動一覧(平成27年度)

前期(4~7月)

	日程		ボランティア参加人数				活動内容	学習支援参加児童数(学年別2日間延べ数)						責任者		
	出発日	帰省日	教員	専門家	職員	学生		計	1	2	3	4	5		6	計
1	4月16日	4月17日	0	1	0	0	1	4/16・17児童面談、保護者面談、教員面談、授業参観観察児童	/	/	/	/	/	/	/	古林 康江
2	5月13日	5月15日	2	1	0	5	8	5/13集団下校 5/14児童・父・母面談、卒業児童・母面談、教員ミーティング、授業参観、学習支援 5/15運動会にて使用する用具の作成、3時限目に体育・算数の補助、児童面談、授業参観、教員ミーティング、学習支援	2	12	3	5	0	0	22	木村 晴壽 矢崎 久 古林 康江
3	5月28日	5月29日	1	0	0	5	6	5/28被災地見学、学習支援 5/29阿部邦子氏打ち合わせ(松本大学にて講演外遊び、授業補助、学習支援)	2	14	1	5	15	4	41	尻無浜博幸
4	6月11日	6月12日	0	1	0	6	7	6/11不登校対応会議出席、授業参観、学習支援 6/12授業参観、学習支援	4	29	6	11	22	6	78	古林 康江
5	6月18日	6月19日	1	0	0	6	7	6/18学習支援、花山合宿打ち合わせ 6/19学習支援、たんぼ学級と田植え、授業サポート(1年生)、花山合宿しおり手伝い(5年生)	4	14	4	6	8	4	40	尻無浜博幸
6	6月24日	6月27日	1	0	0	4	5	6/25~6/27花山合宿へ同行(5年生)	/	/	/	/	/	/	/	尻無浜博幸
7	7月2日	7月3日	1	0	0	6	7	7/2学習支援、参観サポート(体育館にて) 7/3授業サポート(1・4年生)、防犯訓練(犯人役)、学習支援	3	14	0	8	8	5	38	尻無浜博幸
8	7月9日	7月10日	1	1	0	6	8	7/9 集団下校、児童面談、教員面談、授業参観、打ち合わせ、学習支援 7/10児童面談、父母面談、教員面談、連絡会、学習支援	3	16	0	5	13	11	48	木村 晴壽 古林 康江
前期参加者延べ人数			7	4	0	38	49		18	99	14	40	66	30	267	

後期(10~3月)

	日程		ボランティア参加人数					活動内容	参加児童数(学年別2日間延べ数)							責任者
	出発日	帰省日	教員	専門家	職員	学生	計		1	2	3	4	5	6	計	
1	9月10日	9月11日	0	1	0	0	1	9/1母親面談、父・母相談、各担任・養護教諭等の連絡会、授業参観 9/2母親相談、児童相談、各担任・養護教諭等の連絡会、アンケート調査まとめ等、芸術鑑賞参加、授業参観	/	/	/	/	/	/	/	古林 康江
2	10月1日	10月2日	0	1	0	0	1	10/1母親面接、不登校ケース会議、担任・養護教諭話し合い 10/2母親面接、児童面接、アンケート整理、授業参観、担任各々と話し合い	/	/	/	/	/	/	/	古林 康江
3	10月8日	10月9日	0	0	0	3	3	10/8集団下校の付き添い、学芸会準備手伝い 10/9外遊び、授業サポート(1~3年)、学習支援	4	18	5	7	5	0	39	宮阪(学生)
4	10月22日	10月23日	0	0	0	4	4	10/22学習支援 10/23外遊び、学校の手伝い、学習支援	9	24	15	11	6	8	73	林(学生)
5	11月5日	11月6日	0	0	0	6	6	11/5学習支援 11/6持久走大会補助、図書館の古書運び出し、学習支援、外遊び	8	16	4	5	7	2	42	小山(学生)
6	11月12日	11月13日	1	1	0	6	8	11/12健康診断補助、児童センター補助 11/13学習支援、授業サポート(1・2年生数学、2年生合同体育)、2年生用書籍探し、	3	15	0	0	0	0	18	木村 晴壽 古林 康江
7	11月26日	11月27日	0	0	0	8	8	11/26学習支援、保護者講話、ビデオ鑑賞 11/27学習支援、校内掃除、授業サポート(調理実習・体育)、外遊び	11	18	2	6	8	4	49	林(学生)
8	12月3日	12月4日	1	0	0	7	8	12/4学習支援、校内展示物の展示手伝い、花壇の手入れ、外遊び	7	13	3	4	12	1	40	尻無浜博幸
9	12月10日	12月11日	1	1	0	8	10	12/10学習支援 12/11学習支援、特別支援学級授業補助、校内清掃、2年生体育授業補助、保護者配布資料手伝い	10	31	7	10	11	4	73	木村 晴壽 古林 康江
10	2月4日	2月5日	1	0	0	7	8	2/4教頭との打合せ、学習支援 2/5業間遊び、授業サポート(1年園工・2年体育)、学習支援	12	23	6	11	9	4	65	尻無浜博幸
11	2月18日	2月19日	0	1	0	8	9	2/18児童・保護者面接、各担任と打合せ、授業参観、養護教諭とアンケート結果について、校長と面談、児童クラブ補助、学習支援 2/18児童・保護者面接、各担任との打合せ、授業参観、外遊び、授業補助、学習支援	10	26	6	11	28	7	88	古林 康江
12	3月3日	3月4日	0	1	0	7	8	3/3児童・保護者面接、各担任・養護教諭と打合せ、校長と面談、児童クラブ補助、学習支援 2/18児童・保護者面接、各担任との打合せ、外遊び、授業補助、学習支援	10	21	5	12	18	6	72	古林 康江
後期参加者延べ人数			4	6	0	64	74		84	205	53	77	104	36	559	
平成27年度参加者延べ人数			11	10	0	102	123		102	304	67	117	170	66	826	

[資料2] 松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト 会計報告

■収入の部		■支出の部	
前年度繰越金	948,980	旅費	駐車場代・タクシー代 38,540
フラ・イズアロハ チャリティ	130,754	借損料	借り上げアパート契約更新料 32,200
あるぷすタウンフォーラム 募金	2,500	宿泊費	ホテル代 8,300
貯金利息	308	消耗品費	学習支援備品等 8,717
収入合計	1,082,542	打合せ費	参加者打合せ 43,875
		雑役務費	振込手数料 756
		保険料	ボランティア保険 15,600
		研修費	防災士養成講座受講料 132,000
		雑費	アパート備品等 12,017
		支出合計	292,005
次年度繰越金 790,537			

※今年度の前期はCOC事業として、後期は、文部科学省緊急スクールカウンセラー等派遣事業における石巻市の再委託先として実施。
上記はそれ以外の収支。

(2) 心のケアーカウンセリング報告

スクールカウンセラー（臨床心理士） 古林 康江

平成27年度の宮城県石巻市立大街道小学校の様子は、余震も減少し、安定した生活に戻りつつあったが、他地域での豪雨災害・噴火・大震災が連発し、その映像が生々しく報道され、児童の中には自身の災害時の体験が誘発されフラッシュバックが起こり学校行事（防災訓練・体験学習等）等に、辛い子が出た。更に災害後の新築、別居、離婚や離婚話・転居等による家族構成や生活の大きな変化にもよると思われる不登校児童も増加した。また、体調が悪く保健室の利用児童も増加した。

しかし、家庭や学校教職員が一丸となって視覚

記憶優位な子どもたちに合わせた支援法を根気よく続けた結果、卒業式は全員出席、「感動的な立派な式となった」と報告をいただいた。

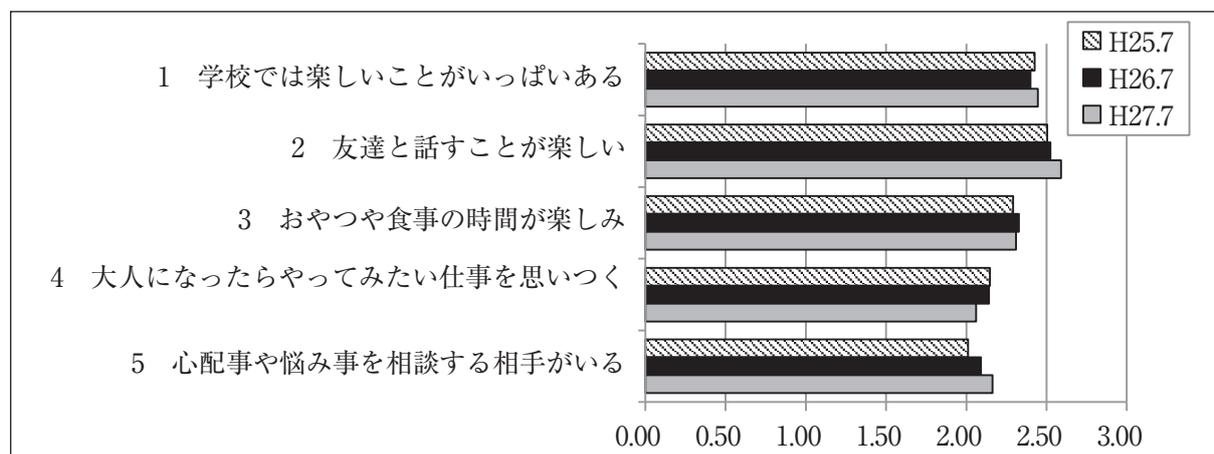
一方、全校児童数は、古林メモによると減少の一途を辿っている。石巻市立大街道小学校30周年記念式典（H21.11.13）現在では、417名だったが、松本大学東日本プロジェクトチームカウンセリングが開始された（H23.5.）時点では、356名、今年度（平成27年度）最終のカウンセリング訪問時（H27.3.4現在）では249名（クラス数も減）となり、災害後の減少が顕著に窺える。

《平成27年度こころとからだのアンケート 集計結果【児童用 A】》

児童用A 【全校】

	H25.7	H26.7	H27.7
1 学校では楽しいことがいっぱいある	2.43	2.40	2.45
2 友達と話すことが楽しい	2.50	2.52	2.59
3 おやつや食事の時間が楽しみ	2.29	2.33	2.31
4 大人になったらやってみたい仕事を思いつく	2.15	2.14	2.06
5 心配事や悩み事を相談する相手がいる	2.01	2.09	2.16
平均	2.28	2.30	2.31

＜採点＞	
ない	0点
すこしある	1点
ある	2点
よくある	3点



- ・いずれの調査項目も、平均が2点を上回った。
- ・学校生活を友達と楽しく送っている児童の様子がわかる。
- ・相談相手がいるという児童の得点が前年より高くなった。
- ・「大人になったらやってみたい仕事を思いつく」という項目がやや下がってきた。
(この得点がよい児童は、アンケートB項目全体が低い得点になっており、心が安定している傾向があるように思われる。)

《平成27年度こころとからだのアンケート 集計結果【児童用B】》

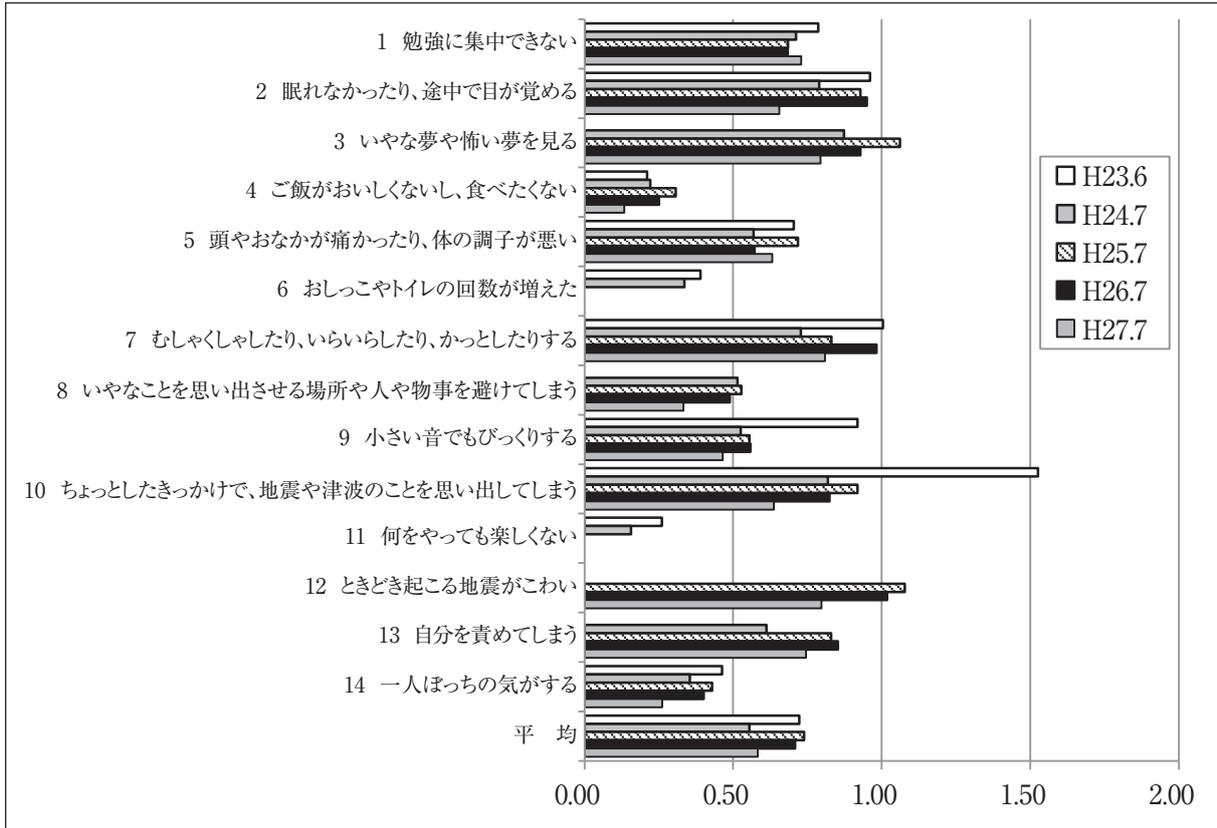
児童用B 【全校】

H27.7実施 大街道小

	H23.6	H24.7	H25.7	H26.7	H27.7
1 勉強に集中できない	0.79	0.71	0.68	0.68	0.73
2 眠れなかったり、途中で目が覚める	0.96	0.79	0.93	0.95	0.66
3 いやな夢や怖い夢を見る		0.87	1.06	0.93	0.79
4 ご飯がおいしくないし、食べたくない	0.21	0.22	0.31	0.25	0.13
5 頭やおなかが痛かったり、体の調子が悪い	0.70	0.57	0.72	0.57	0.63
6 おしっこやトイレの回数が増えた	0.39	0.34			
7 むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かっとなったりする	1.00	0.73	0.83	0.98	0.81
8 いやなことを思い出させる場所や人や物事を避けてしまう		0.51	0.53	0.49	0.33
9 小さい音でもびっくりする	0.92	0.53	0.55	0.56	0.47
10 ちょっとしたきっかけで、地震や津波のことを思い出してしまう	1.53	0.82	0.92	0.82	0.64
11 何をやっても楽しくない	0.26	0.16			
12 ときどき起こる地震がこわい			1.08	1.02	0.80
13 自分を責めてしまう		0.61	0.83	0.85	0.74
14 一人ぼっちの気がする	0.46	0.35	0.43	0.40	0.26
平 均	0.72	0.55	0.74	0.71	0.58

<採点>

- ない 0点
- すこしある 1点
- ある 2点
- よくある 3点



- ・ 平均値では、今回が一番高得点となった。
- ・ 「時々起こる地震が怖い」「いやな夢や怖い夢を見る」「眠れなかったり途中で目が覚める」「ちょっとしたきっかけで地震や津波のことを思い出してしまう」項目の得点が高かった。
- ・ 不登校児童（保健室登校等）の増加や体調不良を訴えている児童が多いことから、保健室来室児童に対しては、丁寧に話を聞く必要性がある。

尚、上記アンケート結果は平成25年度（0.74）がピークで次は初年度平成23年度（0.72）、平成26年（0.71）、平成27年度（0.58）、平成24年度（0.55）の順である。何時までも続く余震と他地域での度重なる大災害による映像の再現（フラッシュバック）や復興後の家族構成や生活の大きな変化（転居・新築・離婚・別居・父も母も仕事にとられた等々）によるものも少なくないと思われる。

石巻市教育委員会・国立国際医療研究センターで毎年行っている【東日本大震災における石巻市児童等の健康実態調査】において、同小学校の中

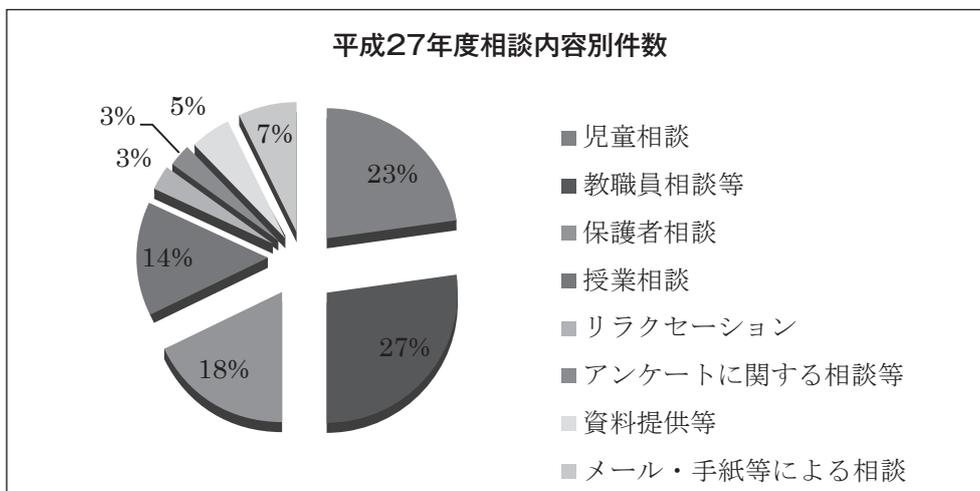
央値は、他校に比べ低得点とのこと。校長先生より、「松本大学プロジェクトチームの力」と感謝の言葉をいただき、関わる学生、教職員共々安堵を覚えると同時に少しお役に立ったことが分かった。

平成27年度大街道小学校相談件数
 (*訪問:10回 カウンセリング:20日)

月	4月	5月	6月	7月	8月*	9月	10月	11月	12月	1月*	2月	3月	合計 (20日間)
訪問回数	1 (2)	1 (2)	1 (2)	1 (2)		1 (2)	1 (2)	1 (2)	1 (2)		1 (2)	1 (2)	10回 20日
児童相談	2	8	2	4		2	5	7	6		4	8	48
教職員相談等※	6	5	6	3		4	3	8	5		11	5	56
保護者相談	3	5	4	3		5	1	5	5		4	3	38
授業参観	4	3	1	1		1	3	2	5		6	2	28
リラクセーション	0	0	1	1		1	0	0	1		1	1	6
アンケートに関する相談等	0	1	1	0		1	0	0	1		1	1	6
資料提供等	1	0	1	2		1	1	1	1		1	1	10
メール・手紙等による相談	1	1	2	1		1	2	1	1		2	2	14
合計	17	23	18	15		16	15	24	25		30	23	206

*8月：大街道小学校夏休みの為、休み
 *1月：長野県内大雪のためカウンセリングの中止
 ※不登校支援会議・事例検討会・発達障害児支援会議等々への出席

年度別	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
相談件数	229件	258件	312件	258件	206件



*平成27年度相談内容別件数の1位は教職員相談・2位は児童相談・3位は保護者相談と続く。年毎に、リラクセーション・アンケートに関するもの・危機介入への資料提供は減少している。メールや手紙による相談は14件と増加。

《4弾パンフレット》～子どもたちに願いを込めて～
～庇護(守られる)される側から役に立つ立場に!!～

【4弾～挑戦の時!】夢を一步一步、現実に!

- 失敗は成功の基 失敗は成功の母
- ピンチをチャンスに

1. 人生において失敗はつきもの。しかしその失敗があるから成功できることもあります。
2. 失敗すれば、その原因を反省し、方法や欠点を改めるので、返ってその後の成功につながることになる。
3. 笑いは心の分水嶺・精一杯楽しく遊ぼう!

★平成28年3月11日(5周年)に向けて、古林・養護教諭と制作(10人の児童の絵と詩の作品を選出させていただく)

《平成28年3月11日全戸配布用パンフレットの制作(4作目)》

チャレンジ!*夢を一步一步現実に!



5年野口駿生さん



5年小野寺翼さん



5年高橋慶さん



5年羽田野佳奈さん

仲間

私たちは 仲間がいるから生きていられる。だから 仲間を大切にする。

必ず仲間は いたほうがいい。手伝ってもらえるから いた方がいい。

仲間は とても大切な人 仲間がいないとすごく悲しい。

仲間は 津波の時、地震の時、色々な時 やつぱり仲間は大切だ!

私がかくした時、転んだ時、泣いた時 目標を達成できなかつた時、仲間が助けてくれる。

「大丈夫、仲間は、そこ言ってくれた。」



5年吉田真菜さん



5年永沼実紗さん

詩: 4年高田夏輝さん・山田佑哉さん・佐々木珠羽さん・庄子叶那さん・阿部雅姫さん



5年齋藤隼空さん

～失敗は成功の基～

人生において失敗は付きものです。誰でも失敗し、失敗を成功のチャンスにしています。ピンチはチャンスですね。大切なのは どうして失敗したのか、仲間や家族と一緒に、その原因を振り返り、いろいろなやり方を考え、実行していくことです。きっと成功に繋がります。又、失敗を大切に一緒に考え、成功の喜びを分かち合える仲間がいて、家族がいることがチャレンジ精神を育てます。

さあ!夢に向かって一步一步チャレンジしてみよう!失敗なんて怖くない!



5年齋藤隼羽さん



5年佐藤百果さん



5年遠藤夢士さん

☆松本大学カウンセラー 古林 康江 ☆大街道小学校養護教諭 高田 公子

★学生の活動も多岐にわたった!!★



《調理実習へ》



《集団下校の付き添い》



《児童クラブ支援お手伝い》



《視察》



《体育授業お手伝い》